

ベルマーク新聞 7月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所 大阪府北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 〒530-8211 電話 06-6231-0131 ダイヤルイン 06-6201-8031 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

ラオスに届け！私たちの絵本

八王子市立由木中学校が「絵本を届ける運動」に参加



(写真左) 出来上がった絵本を掲げる八王子市立由木中学校の生徒たちと海老名利亮先生
(同右上) 翻訳シールをハサミで切った様子
(同右下) ラオスで見つけた絵本

ベルマーク財団の「教育応援隊」のひとつ「絵本を届ける運動」に、東京・八王子市立由木中学校が初参加しました。絵本に翻訳シールを貼り、アジアの子どもたちに届ける活動です。指導にあたった海老名利亮先生は、以前ラオスの図書館で日本から送られた絵本に出会って感動したことがあり、ぜひ生徒たちにこの活動を経験してもらいたいと、教育応援隊に応募したそうです。

7月6日の放課後、生徒会役員8人を含む同校1～3年の29人が教室に集まりました。海老名先生は、自分がラオスを訪ねた時の写真を見せ、「これから作る絵本はこうして現地に届きます」と説明。ラオス訪問は9年前だそうで、

写真の中の海老名先生を見て生徒たちからは「若～い」など声飛びました。

生徒たちは「おおきなかぶ」など5種類の絵本から1冊を選び、席に持ち帰って翻訳シールを切りとり、絵本に貼っていきます。こまかい作業ですが、みな和気あいあいと手を動かし、約1時間ほどで絵本はほぼ完成しました。

仕上げとして、巻末に自分の名前をラオス語で書き込みます。ひらがなとラオス語の対照表を見て書くのですが、濁音などラオス語にはない文字もあり、「どうしようかなあ」と苦労しつつ、みんな丁寧に書き込んでいました。

3年生の松尾遼くんは、「実際に手でさわって作業したら、これをラオスに届

けるんだという実感がわき、達成感があった」。また2年生の新井佑さんは、「現地で勉強したいと思う人を支えることができたのでは」と話しました。

3年生の堤美和さんは、将来の夢がボランティアで海外に学校を建てることだといいます。「今日は、その夢とつながる作業で、すごいいました。自分のやりたいことが、更に明確になりました」と話してくれました。

海老名利亮先生は、JICA（国際協力機構）の海外研修でラオスを訪ねました。開発途上国であるラオスは、公衆衛生などの知識不足で健康不安もあり、教育現場でも教えられる人材が不足していました。でも、子供たちは素朴で明るく、ニ

コニコと笑顔を向けてくれました。そんなラオスに、「自分たちが学ぶことも多いのでは」と海老名先生は考えました。単に開発を支援することが、果たしているかどうか……。葛藤する中、「でも文字を覚えることは大切で、絵本を送ることは必要な活動だ」と思い至ったそうです。

海老名先生は昨年、由木中学校に赴任し、まず学校としてベルマーク運動に参加することから始め、今春、財団の案内が来てすぐに応募したそうです。今年度の教育応援隊「絵本を届ける運動」は締め切りましたが、シャンティ国際ボランティア会（03-6457-4585）に申し込めば有料で参加することができます。

説明会に 4800 校・1 万 2 千人余が出席

2018年度のベルマーク運動説明会が終了しました。5月8日の新宿・広島・福岡からスタートして、6月22日の宮崎県延岡市がゴール。全国47都道府県95カ所を、26人の財団員らがチームを組んで、手分けして回りました。会場に来られた方は合計で1万2884人でした。これから1年間、ベルマーク運動をよろしくおねがいたします。

各会場で、昨年度のPTAの担当だった方を中心に、ベルマーク運動の体験発表をしていただきました。運動の喜びや悩み、工夫そして提言など、いずれも示唆に満ちた内容でした。ありがとうございました。本号の2、3面に、発表者の写真を一挙掲載させていただきました。

それぞれの発表の詳細は財団HPをご覧ください。また、中国地方・九州地方の4会場の説明会を回った財団員のドキュメントを4面に掲載しています。

協賛会社のみなさまには、会場にブースを出しての試供品などの提供と同時に、ときには会場設営なども手伝っていただき、深く御礼申し上げます。受付を手伝うなどしていただいたウェブベルマーク協会のスタッフにも感謝いたします。

説明会で上映したDVD「未来を育むベルマーク」の貸し出しは通年で受け付けています。そのほか、ベルマーク運動について、何か分からないことや知りたいことがあったら、いつでも気軽に財団にご相談ください。

